

パネルディスカッション：パリのショパン

5月30日（日）開場 15:30 開演 16:00 入場料 ¥3,000

パネラー：河合貞子、小林 仁、青柳いづみこ

ショパンが祖国ポーランドの革命をさけて、パリへ到着したのが20歳の時ですが、同じように革命の騒動を避けるために多くのポーランドの貴族たちもパリに亡命し、一つのコミュニティをつくっていました。当時のパリは音楽、絵画、文学など芸術の中心で多くの芸術家が比較的狭い地域に住み、おたがい密接な交流を持っていました。

ショパンが画家のドラクロワ、詩人のミツキエヴィチといった芸術家との交流を通じて、彼の作風が変化していったのは当然ですが、その背景となる 1830 年代のパリの様子について、研究し、著書を出しておられる河合貞子さんを中心に、さらにその著作に深く傾倒しておられる青柳いづみこさんとの対話形式で話を進めます。

意外と知られていない、当時のフランス革命の騒動がまだおさまらない中のパリの様子がなまなましく語られます。



河合貞子

■プロフィール／かわい ていこ

同志社大学大学院 文学研究科美学芸術学専攻 博士課程修了

現在

奈良芸術短期大学 非常勤講師

●著書

『はじめてのショパン』（春秋社）

『ショパンとパリ』（春秋社）



小林 仁

■プロフィール／こばやし ひとし

第 25 回日本音楽コンクール優勝・特賞受賞。ドイツ・バイエルン州の給費留学生としてミュンヘンに留学。1960 年ワルシャワショパン国際ピアノコンクール入選。数多くのリサイタルや N 響をはじめとして、日本のほとんどのメジャーのオーケストラと 40 曲以上のコンチェルト協演の経歴を持つ。1995 年にはワルシャワのショパン国際ピアノコンクールをはじめ、ジュネーブの国際コンクールなど内外の多くのピアノコンクールの審査員として招待されている。ポーランド政府よりポーランド文化へ大きな貢献をたたいたとして、最高位の文化勲章である「グロティア・アルティス文化功労ゴールド勲章」を叙勲。

東京藝術大学名誉教授、日本ショパン協会会長。



青柳いづみこ

■プロフィール／あおやぎ いづみこ

ピアニスト・文筆家。安川加壽子、ピエール・バルビゼの各氏に師事。東京芸術大学博士課程修了。平成 2 年度文化庁芸術祭賞。演奏と執筆を両立させる希有な存在として注目を集めており7枚のCDが『レコード芸術』誌で特選盤となるほか、『翼のはえた指』で第 9 回吉田秀和賞、『青柳瑞穂の生涯』で第 49 回日本エッセイストクラブ賞、『6本指のゴルトベルク』で第 25 回講談社エッセイ賞を受賞。2008 年にはドビュッシー没後 90 周年記念として全 4 回のコンサートを開催。同年リリースのCD『ドビュッシーの時間』は日本レコードアカデミー賞にノミネート。

2009 年、エドガー・ポー生誕 200 周年記念としてドビュッシー未完のオペラ『アッシャー家の崩壊』を上演、注目を集める。大阪音楽大学教授、青山学院大学講師。日本ショパン協会理事。

HP：http://ondine-i.net